

月刊 都響
2022 October



気を付けてね！ ホールでの過ごし方

- 携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
- 演奏中はお話ししないで静かに聴きましょう！
周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- 録音・録画、写真撮影は禁止です。

2022
10/16

Subscription Concert

第960回定期演奏会Cシリーズ

会場：東京芸術劇場コンサートホール

指揮／トーマス・ダウスゴー

チェロ／宮田 大

♪ランゴー：交響曲第4番《落葉》(約24分)

♪シューマン：チェロ協奏曲 イ短調 op.129 (約24分)

♪ニールセン：交響曲第4番 op.29《不滅》(約36分)

 東京都交響楽団

PROGRAM NOTES

本日の指揮者トーマス・ダウスゴーさんはデンマーク生まれです。今日のコンサートでは、ダウスゴーさんの祖国デンマークが生んだ二人の作曲家、ランゴーとニールセンが同じ年に作った交響曲が演奏されます。また、彼が信頼を寄せるチェリストの宮田大さんも登場です。



ランゴー：交響曲第4番 らくよう《落葉》

おそらく皆さんは、ルーズ・ランゴー（1893～1952）という作曲家の名前を初めて聞くかもしれません。後半に登場する作曲家カール・ニールセン（1865～1931）と同じ時代、同じデンマークに生きていた作曲家です（ランゴーの方が若く、ニールセンとは親子ほどの年齢差があります）。少年時代から才能にあふれ意欲的に作曲をしましたが、これまでほとんど知られてこなかった人です。最近ようやく彼の音楽の素晴らしさが認められてきました。しかし生演奏で聴けるチャンスはまだ限られているので、今日も貴重な機会です。



交響曲第4番は、ランゴーが22歳の時（1916年）の作品で、その後書き直しをして、57歳の時に今の形へと仕上げました。タイトルに《落葉》とありますが、作品はセンチメンタルな秋の雰囲気というよりも、ドラマティックで迫力のある世界を描きます。「絶望的な森のざわめき」（冒頭）、「太陽の光線」、「雷鳴」「絶望」「日曜日の朝の鐘」などの言葉が添えられた13の部分に分かれています。途中で区切れることなく24分ほど続いていきます。

シューマン：チェロ協奏曲 イ短調 op.129

ドイツの作曲家ロベルト・シューマン（1810～56）がこのチェロ協奏曲を作ったのは40歳（1850年）の時、人生におけるターニングポイントを迎えていました。作曲家としてのキャリアが認められ、デュッセルドルフというドイツの都市から音楽監督になってほしいと頼まれたのです。大きな決断が必要でしたが、彼は新天地での仕事を引き受けることにしました。デュッセルドルフで暮らし始めてすぐに彼はこのチェロ協奏曲に取り掛かり、ほんの2週間ほどで完成させました。



第1楽章はオーケストラが3つの和音を奏でて開始します。チェロが歌うようにロマンティックな主題を奏で、オーケストラとの対話を深めていきます。

ゆったりとした**第2楽章**は柔らかなメロディーが朗々と奏でられます。独奏者だけのフレーズが現れると、そのまま**第3楽章**へと入ります。力強くリズムカルな終楽章は輝きを増していき、おしまいは明るい響きで堂々と締めくくられます。

ニールセン：交響曲第4番 op.29 《不滅》

デンマークを代表する作曲家ニールセンが、1914年～16年にかけて作った交響曲です。つまり、ランゴールの交響曲と同じ年に書かれたものです。タイトルに《不滅》とありますが、ここには「偉大な芸術も人間の魂も滅ぼすことはできない」というニールセンの思いが込められています。当時ヨーロッパでは第一次世界大戦が起こって暗い空気に包まれていましたから、ニールセンは音楽を通じて人々に強い思いを抱いてほしかったのかもしれません。



曲は33分ほど。第1部から第4部まで分かれています。この作品も一気に続けて演奏されていきます。**第1部**はリズムカルでエネルギッシュです。**第2部**では木管楽器が活躍し、ほのぼのとした音楽となりますが、突如ヴァイオリンの悲しげな旋律で**第3部**が始まります。感情がじわじわと高まり、弦楽器が素早いフレーズを奏でたのち、一瞬の休みを経て、2組のティンパニが活躍する輝かしいフィナーレの**第4部**となります。

文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

指揮 トーマス・ダウスゴー Thomas DAUSGAARD



©ThomasGrøndahl

デンマーク出身の指揮者。BBC スコティッシュ交響楽団首席指揮者、スウェーデン室内管弦楽団桂冠指揮者、トスカーナ管弦楽団およびデンマーク国立交響楽団の名誉指揮者等、数々のオーケストラのタイトルを持っている。デンマーク女王より勲章「騎士十字章（Cross of Chivalry）」を与えられた。ダウスゴーは個性的で新しいものをプログラムに取り入れ、社会や現代の問題と音楽との関り、暮らしにおける音楽のもつ力と可能性に情熱を傾けている。ウィーン交響楽団、ニューヨーク・フィルハーモニックをはじめ、世界的なオーケストラを多く指揮し、BBC プロムスやタングルウッド等、主要な音楽祭にも定期的に出演している。都響とは2015年5月に初共演、今回は2度目の登壇となる。

チェロ 宮田 大 Dai MIYATA



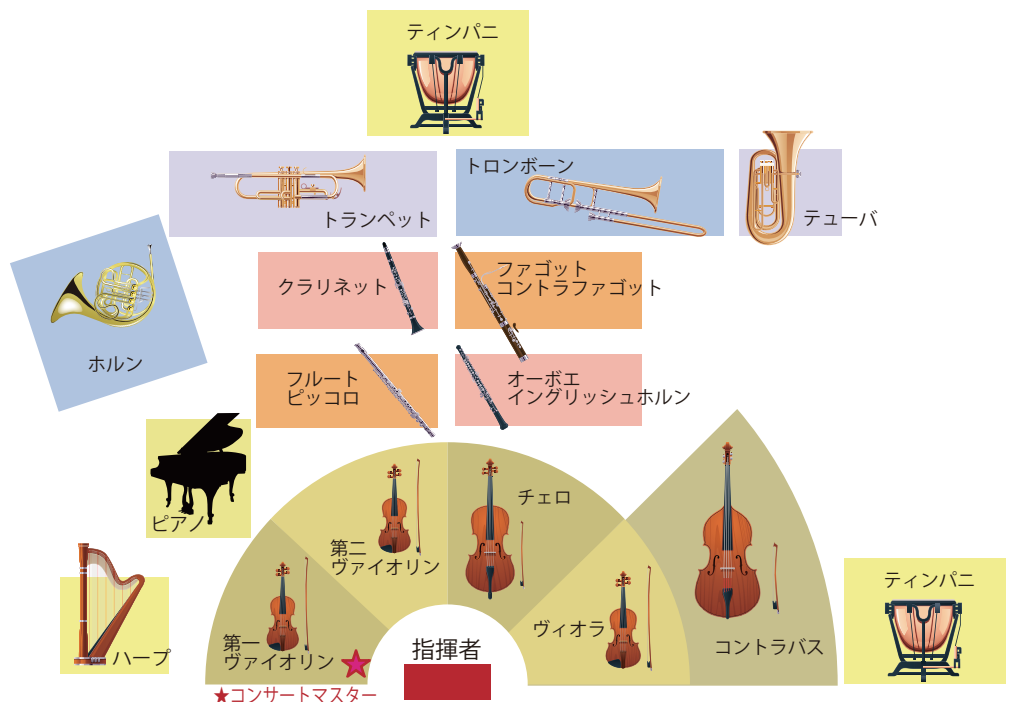
©日本コロムビア

ジュネーヴ音楽院（スイス）卒業、クロンベルク・アカデミー（ドイツ）修了。2009年、ロストロポーヴィチ国際チェロ・コンクール（パリ）において、日本人として初めて優勝。参加した全てのコンクールで優勝を果たしている。その圧倒的な演奏は、作曲家や共演者からの支持が厚く、日本を代表するチェリストとして国際的な活動を繰り広げている。録音活動も活発でトーマス・ダウスゴー指揮 BBC スコティッシュ交響楽団との『エルガー：チェロ協奏曲』の欧米盤が、ヨーロッパの権威のある賞の一つ「OPUSKLASSIK 2021」コンチェルト部門（チェロ）を受賞した。

1698年製ストラディヴァリウス“シャモニー（Cholmondeley）”（上野製菓株式会社より貸与）を使用。

オーケストラ配置図（10月16日 第960回定期演奏会Cシリーズ）

演奏する曲によって使わない楽器もあります。
どの曲にどの楽器が使われているかにも注目してみてくださいね。



※楽器の配置は一例です。当日のステージで確認してください。

TMSO

東京都交響楽団



東京オリンピックの記念事業として
1965年に東京都が設立しました。

都響（ときょう）という愛称で親しまれています。

上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。



2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。